

神経研究所 (NIN)

国産初の筋ジストロフィー治療薬の開発に成功

遺伝子疾患治療研究部 部長
青木 吉嗣

National Institute of Neuroscience

難病の筋ジストロフィーは、遺伝子変異が原因で、筋細胞膜からジストロフィンがなくなり、次第に筋が痩せて力が弱くなります。私達と日本新薬(株)は、患者さんとご家族の協力を得て、根本的な治療法がなかったデュシェンヌ型に対して、遺伝子の小さな断片を利用したビルトラセン(核酸医薬品)を開発しました。ビルトラセンは、53番目のエクソンをスキップすることで、ジストロフィンを作れるようにする、国産初の筋ジストロフィー治療薬です。デュシェンヌ型患者さん全体の約6%が治療の対象になります。患者さんは週1回、外来で点滴を受けますが、これまでに重い副作用の報告はありません。治療により、筋肉でジス

トロフィンが回復する量は正常の約5%ですが、歩く速さなど運動機能の改善傾向も認められます。続いて私達は、44番目のエクソンをスキップする薬を開発中です。こうした世界最先端の研究を世界中から集まった仲間と進めています。



後列左から、ピリーさん、陳さん、サイフラさん
前列左から、チェイトラさん、シャンさん、青木

ストレス関連疾患の
解明を目指して

行動部医学研究部 部長
金 吉晴

精神保健研究所 (NIMH)

行動医学研究部は、災害や犯罪、虐待によるPTSDや、摂食障害、心身症といった、ストレス関連疾患の研究を大きな柱としています。これらの病態解明のために児童期からのライフイベント、遺伝子発現、脳機能画像、免疫炎症系、心理特性、認知バイアス、認知機能、認知訓練などを活用すると共に、これらの指標を認知行動療法や新規薬物への治療効果研究にも取り入れ、治療反応の予測を検討しています。摂食障害の一部は難治性であり専門施設も限られていることから、厚生労働省と連携して支援拠点病院を取りまとめて、治療支援体制モデルを全国に広めていくことに取り組んでいます。トラウマに関しては、トラウマなし、あり(PTSD

あり、PTSDなし)の3群比較によってトラウマの影響とPTSD発症のメカニズムを検討しています。また様々なストレスのもたらす影響を検討するために、コホート研究などのデータを活用して、生活習慣などのもたらす長期的な精神的影響と回復についても調査を行い、患者支援に役立てています。いずれの領域についても、教育、研修、治療者の育成に努めております。



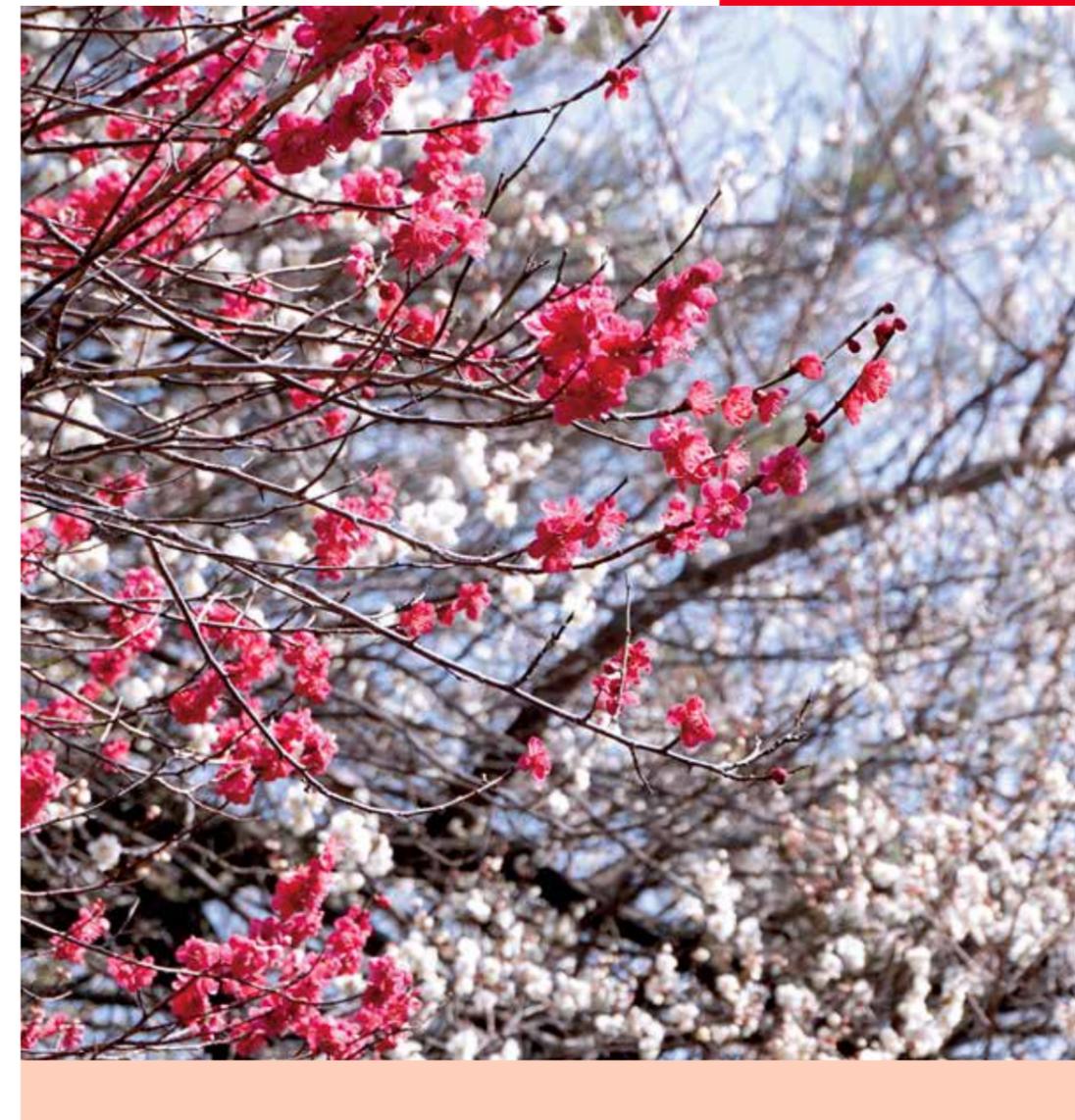
National Institute of Mental Health

NCNP 診療ニュース

ご あ い さ つ

新年 明けましておめでとうございます

2023.1
Vol.32



診療科紹介

心療内科

各部門紹介

看護部

身体リハビリ
テーション部

専門疾病センター紹介

多発性硬化症
センター
総合てんかん
センター

活動紹介

神経研究所
精神保健研究所

新年、 明けましておめでとうございます。



病院長
阿部 康二

2020年初頭から始まった全世界的なCOVID-19の嵐は、2021年秋の巨大な第5波を何とか乗り切ったと思ったら、12月に入って今度は感染力が強いというオミクロン変異株が現れて、endlessな戦いが続いている状況で2023年新春を迎えることになりました。当院では5階北病棟(有賀病棟医長、佐伯師長)を中心に職員皆様が丸となって、この未曾有の医療災害に対応して来ていただきました。改めて皆様方のご尽力に感謝申し上げます。当院には呼吸器疾患や感染症の専門家はいませんが、逆に精神疾患や神経難病、重症心身障害等をもつ患者さんが新型コロナウイルスに感染した場合の受け入れ先として東京都からの要請にもお応えしてきました。

一方、2021年には病院玄関前のロータリに一花壇が出来、通院患者さんやご家族からも好評をいただきました。12月からは病院アプローチの木々に初めてイルミネーションが設置され、夕方以降を明るくしてくれています。また2022年1月からはキッチンカーが構内で営業を始めるなど明るい話題も沢山出てきました。5月からは待望のシャトルバスの運行が始まり西武線萩山駅とJR線新小平駅と当院の間を結んで患者サービス向上に貢献しています。病院の新しい専門外来としてパーキンソン病専門外来やALS専門外来、SCD/MSA専門外来、めまい・しびれ外来、腰痛・膝痛外来などが始まり、少しずつ変わってきています。

新しい変化を新しい力に変えて、当院が皆様と共にますます発展しますよう一緒に頑張っていきましょう。



心療内科



心療内科 医師
富田 吉敏

ストレスが関わる体の症状に お役に立てるかもしれません。

我々は生活の中で、進学・就職・結婚・転職などのライフイベントを経験します。それは実はストレスになるかもしれません。

イベントの最中、動悸や息切れなど体の変調を感じませんか?。そして、そのイベントが厄介かつ苦手なものだったら、更なる体の変化を感じませんか?。

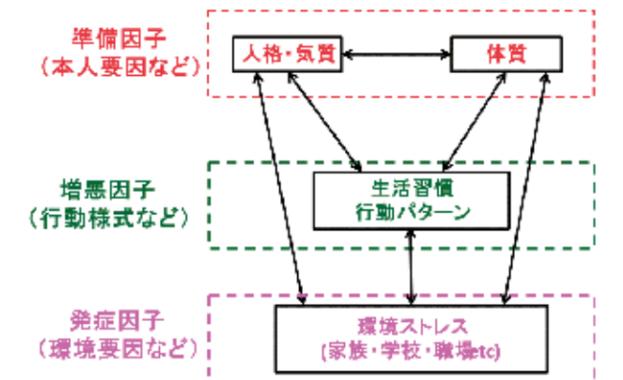
睡眠や休息などでリラックスできる時はいいですが、変調や疲弊が蓄積して生活に支障が生じた場合は何かしらの対応が必要となります。心療内科は、ライフイベントに伴う心理社会的なストレスの影響により、身体的な変調を呈する病態～心身症～の治療に関わる診療科です。検査で異常が指摘されない場合、治療を受けても体の症状が残存する場合などに、“心身症”の病態が混在している可能性があります。

心身症は、図のように、性格・気質・体質などの準備因子、生活習慣や行動パターンなどの増悪因子、家族・学校・職場といった環境ストレスの発症因子が相互に影響して出現すると考えられ、心療内科では診察の際に確認する必要があるものです。また各診療科で治療される身体疾患にも心理社会的ストレスが関わった場合、心身症の病態を内包することもあります。具体的には機能的消化管障害(過敏性腸症候群、機能

性ディスペプシア)、本態性高血圧、慢性疼痛などです。

治療に関しては薬物療法、心理療法などを合わせて症状の緩和を目指します。ですが一番重要なことは患者さん御自身に病態を納得して、理解して、対応していただくことで、一緒にストレスの対応策を考えることが必要となります。病名より病態理解が必要です。通常的身體治療で中々改善しない場合、気がつかないまま蓄積したストレスが影響している可能性があります。ストレスの存在を考えてみませんか?。

体の症状より気分・情動の問題がメインの方は精神科の受診を推奨しますし、診察や治療の過程でも精神科を紹介させていただく可能性があります、あらかじめ御了承ください。



看護部

副看護部長 森 由紀子

患者さんの心と体を支える看護師の育成に向けて



当院看護部が求めているのは、“こころとからだの両面から患者さんを見ること”が看護師です。患者の高齢化に伴う合併症や一般科の急性期治療にも対応できるよう、精神面だけでなく、身体面の急変時にも対応できる看護実践能力の育成に取り組んでいます。

病院では、RRS(院内迅速対応システム)の導入を決定し、10月より運用を開始していますが、そこでも初動となる看護師による患者の異常への気付きと医師への報告が重要となります。月に1回~2回開催している全職員(コメディカルや事務職など全職種)対象のBLS研修では、看護部長がインストラクターを務め教育を行い、1回40~60名ずつの修了者を輩出しています。

患者さんに一番近く、長く関わる看護職が、多職種との対話を持ちながら協働し、患者さんの安全や安心に貢献できるよう、今後も努めてまいります。



NCNP病院 各部門 紹介

身体リハビリテーション部

身体リハビリテーション部部长 原 貴敏

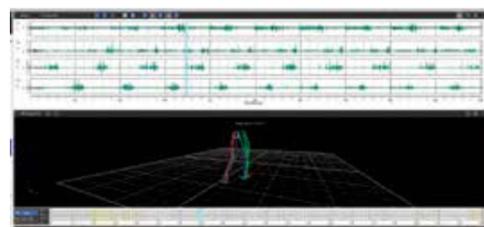
痙縮治療、ニューロリハビリテーションに力を入れております



身体リハビリテーション部は、神経・筋疾患を中心に幅広い疾患に対してリハビリテーション治療を提供しております。運動障害の他に、呼吸機能障害、嚥下機能障害、構音・発声障害、高次脳機能障害など多岐に渡る障害に対してリハビリテーションを実施しております。また当科独自の治療として、痙縮に対する神経ブロックや装具療法、車椅子や補装具の作成なども実施しております。

2022年7月に新たに、ニューロリハビリテーション外来を開設致しました。これまで痙縮外来として、ボツリヌス療法を中心とした治療を行ってまいりましたが、痙縮治療のみならず、上肢下肢の機能障害に対して、三次元動作解析装置、表面筋電図などの最新の機器を用いて幅広い視点から評価し、患者さんの個々の状態に応じた治療アプローチを決定していく取り組みを行っております。

2022年7月に新たに、ニューロリハビリテーション外来を開設致しました。これまで痙縮外来として、ボツリヌス療法を中心とした治療を行ってまいりましたが、痙縮治療のみならず、上肢下肢の機能障害に対して、三次元動作解析装置、表面筋電図などの最新の機器を用いて幅広い視点から評価し、患者さんの個々の状態に応じた治療アプローチを決定していく取り組みを行っております。



多発性硬化症センター

多発性硬化症センター長
神経研究所特任研究部長 山村 隆

新しい医療、研究情報を世界に向けて発信しています

NCNPの各部門が連携して、多発性硬化症(MS)や視神経脊髄炎(NMO)、さらには筋痛性脳脊髄炎(ME/CFS)の診療と研究開発を進めています。世界の医療を変えるような情報を発信することをモットーに、国際的に認知される成果を出し続けています。代表例は、NMOに対する抗IL-6受容体抗体治療の開発で、論文は2019年に医学界の最高峰ニューイングランド医学雑誌に掲載されました。また最近では英国の医学雑誌ランセットで、MSの新たな分類に関する提言も行っております。新薬の医師主導治験も積極的に進め、内外から注目を集めているのが当センターです。

診療では、再発も症状進行もMRI画像上の悪化もない状態(no evidence of disease activity-3; NEDA-3)の維持を目標にして、国内承認薬の効果を最大限に引き出す治療を心がけています。また難治例に対して、神経研究所免疫研究部との連携により、新たな薬剤を開発する研究も進めています。患者さんや医師に直接語りかける市民公開講座や講演会も、いろいろと企画しています。



MSについての特別寄稿が「The LANCET Neurology」に掲載



今年度開催した講演会のプログラム

専門疾病センター

NCNP病院には現在12の専門疾病センターがあります。
診療科や専門分野を超えたチームにより高度専門的医療を行います。

総合てんかんセンター

小児から高齢者まで包括的てんかん診療を行います

特命副院長、てんかん診療部長、
総合てんかんセンター長 中川 栄二



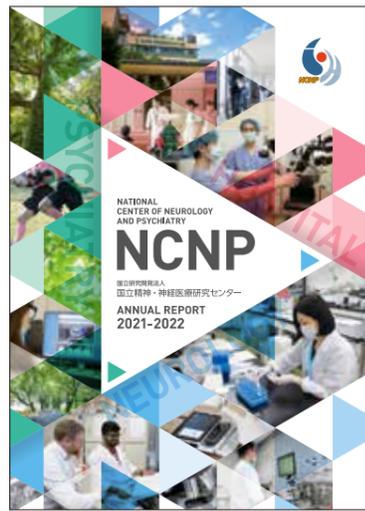
てんかんは有病率が0.8-1%で、小児から高齢者まで、どの年齢でも誰もが発症する可能性がある患者数の多い脳の慢性疾患です。超高齢社会を迎えたわが国では高齢者のてんかん患者が増え、今後さらに成人・高齢者てんかん医療の必要性が増加することが予想されます。NCNPでは、超高齢社会に対応して、成人・高齢者てんかんの包括的診断と治療体制をより一層充実させるために、てんかん診療部を立ち上げました。同時に、乳幼児から高齢者まであらゆる年齢層に対して、切れ目のない適切なてんかん診断と診療の提供、先駆的な臨床研究、社会啓発活動を行うため、組織を「総合てんかんセンター」と改め、診療連携体制を強化しました。更に、てんかんに関する情報を集めたリソース・レポジトリ

システムを構築し、病態解明、診断と治療方法の開発・提言を行うことを目的に診療、臨床研究を行っています。

精神診療部 診断、病態・精神症状評価 薬物治療・治療、神経心理研究 神経生理学的研究	脳神経小児科診療部 診断、病態・発達評価 薬物治療・治療、術前・術後評価 神経画像研究、遺伝子研究	脳神経外科診療部 外科治療、術前・術後評価 外科治療技術の開発
脳神経内科診療部 診断、病態・神経生理学的研究 薬物治療・治療 免疫・遺伝学的研究	てんかん診療と研究 てんかん診療部 総合てんかんセンター	精神保健研究所 知的発達障害研究部 発達障害、行動障害研究
放射線診療部、IBIC MRI, PET, SPECT 画像解析・画像診断研究	看護部 外来・病棟看護、看護研究 発作時ビデオ脳波モニタリング	神経研究所 疾病研究二部 遺伝子研究、病理研究 疾病研究七部 高磁場MRI, fMRI, 脳機能研究
臨床検査部 MEG, 脳波検査、病理診断 長時間ビデオ脳波モニタリング	医療連携福祉部 社会復帰・生活支援	メディカル・ゲノムセンター NCNPバイオバンク
心理指導部 神経心理検査、認知行動療法	薬剤部、TMC 臨床研究推進部 診療支援、臨床試験	
リハビリテーション科 精神リハ、身体リハ てんかん学習プログラム		

Annual Report 2021-2022を発売しました。

広報室
川嶋 哲子



当センター年報『NCNP ANNUAL REPORT 2021-2022』ができました。病院・研究所で取り組んでいる医療・研究の最前線や、センターで行っている幅広い活動について掲載しています。ぜひご覧ください。
センターのホームページから電子ブックまたはPDF版をダウンロードしてご覧頂けます。



PDF版



電子ブック

NCNP 広報誌 検索

東京都より災害拠点精神科病院の指定を受けました

精神診療部
精神診療部長 鬼頭 伸輔

当院は令和4年10月11日付で東京都より災害拠点精神科病院の指定を受けました。災害拠点病院とは大規模災害が起きた際に、主に重症者の収容・治療を行う病院のことであり、その中でも特に精神科医療の提供を行うものです。都内では公益財団法人井之頭病院、東京都立松沢病院に続いて3病院目となります。

都内精神科病院が被災した際の患者さん受け入れを想定していますが、さまざまな災害に備え、DPAT(災害派遣精神医療チーム)隊員を中心に院内各部署の協力を得て、備蓄物品の準備や受け入れ態勢の整備を行っています。



Nature

NCNP四季便り

情報システム顧問 永井 秀明

てんとうむしの日向ぼっこ

冬、昆虫たちはどうやって過ごしているのでしょうか？

バッタは卵、カブトムシは幼虫、モンシロチョウは蛹で冬を越します。

ところがテントウムシは、成虫のまま木の隙間などにみんなで集まって春を待ちます。

では春までずっと動かないかというと、そうでもありません。

小春日和には、日向ぼっこをしに出てくることがあります。

このテントウムシは、病院の中庭のコンクリートの上で日向ぼっこをしているところです。



「東京都難治性精神疾患相談窓口」を開設しました

精神科医長
野田隆政

この相談窓口は、東京都難治性精神疾患地域支援体制構築事業の一環として、都内で精神科病院等に従事する職員や、地域で難治性疾患を有する患者様への支援に携わる事業所及び行政関係者から専門的治療(クロザピン・ECT)に関する相談を受け、助言する窓口です。

当相談窓口は東京都より委託を受け、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターが運営いたします。



<https://tokyo-nanchi-soudan.ncnp.go.jp/>

医療費あと払いサービスの導入について

医事課長
佐々木 真

外来受診後、医療費を「あと払い」にすることで会計窓口での確認後(処方せんのお受け取り後)にお帰りいただける有料サービスです。当院では、新型コロナウイルスの感染防止対策のため、院内での待ち時間を少しでも減らしていただけるよう、2022年11月より「医療費あと払い」サービスを導入することといたしました。まずは事前登録をお願いします

なお、お薬のある方などは、処方内容の確認などのためお時間をいただく場合がございます。



ご存じですか？ NCNP 及び NCNP 病院 公式アカウント



https://twitter.com/NCNP_PR



ぜひ、フォロー・チャンネル登録をお願いします!!



<https://www.youtube.com/user/NCNPchannel>



<https://www.instagram.com/ncnp.pr/> NCNP公式



https://www.instagram.com/ncnp_hospital/ 院長室



NCNP公式

院長室

NCNPプレスリリース (<https://www.ncnp.go.jp/topics/>)

- 北陸地方で初「石川県摂食障害支援拠点病院」(全国5カ所目)が金沢大学附属病院に開設されました
- 国立大学法人筑波大学と国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターは教育研究についての連携に関する協定を締結しました
- 就労条件の希望マッチ度が就労期間と関連することを実証—当事者の希望を優先する就労支援の後押しに—
- アスリートのメンタルヘルス支援の促進へ～国際オリンピック委員会(IOC)によるメンタルヘルス教育教材の日本語翻訳版を公開～
- わが国初、「こころの幸福度」高い社会をめざしたメンタルヘルスプラットフォームの構築～KOKOROBO-Jの全国実装を推進～
- 摂食障害治療施設リスト(Web版)をWEB公開いたしました
- 人間の耳に聴こえない超高周波を豊富に含む音が 血糖値上昇を抑制することを発見～糖尿病に対する「情報医療」の開発に期待～
- 野菜・果物およびフラボノイド豊富な果物とうつ病との関連について 果物およびフラボノイドの豊富な果物にうつ病発症リスク低減を確認
- 「東京都難治性精神疾患相談窓口」を開設いたしました